

おわりに



3年間にわたる徳島文理大学と連携したストーカー行為等に関する調査研究も、ここにご報告する運びとなりました。

調査研究を進めていくにあたり、ご多用にもかかわらず、徳島文理大学人間生活学部心理学科の青木宏教授、小畑千晴准教授（現岡山県立大学）をはじめ、関係者の皆様には、多大なご尽力を賜りましたことを、まずもって御礼申し上げます。

この調査研究では、県内の大学生等を対象としたストーカー被害実態調査や親密な関係にある相手との対人関係に関する意識調査を実施し、この結果に対する考察と事案防止対策について、県内の大学生等に対し報告会や講義を行ってまいりました。

そして、ストーカー被害実態調査では、被害者自身が被害に遭っているかどうか分からない、あるいは、事案を過小評価して警察に相談する方が少ない現状を受け、徳島県警察独自のストーカー被害防止テストを作成し、少しでも被害者等が相談をしやすい環境作りに貢献することができたと考えています。

被害者の安全を確保するためのひとつの方策として取り組んでいるストーカー加害者に対する精神医学的治療等の推進に関しては、より多くの加害者が働きかけに応じて治療等に繋がっていくことができるよう、研究過程で実施した加害者面接の内容を分析し調査研究の担当者が議論を交わすなどした結果、ストーカーの心理過程について提示することができました。これにより、加害者の心理状況に一定の理解を示しながら働きかけをすることができ、円滑に治療等に繋げることができるのではないかと期待しているところです。

本報告書に掲載している調査研究結果は、徳島文理大学との共同研究だからこそ成し得たものであります。徳島県警察では、この貴重な研究結果を十分に生かしつつ、今後も引き続き、大学等関係機関との連携を図りながら、ストーカー被害の未然防止と拡大防止に関する活動を行い、一人でも多くの人が被害者にも加害者にもならないための取組を推進してまいります。

令和3年3月

徳島県警察本部少年女性安全対策課長

山口 一巳